

# 沿岸重要種の資源評価研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 2019 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 資源海洋科 富山皓介  
浜名湖分場 飯沼紀雄  
伊豆分場 長谷川雅俊

## 【研究の背景とねらい】

- ・2020 年 12 月に施行された新しい漁業法において、資源評価対象種の拡大が求められています。
- ・本県では、水揚量や魚価等の観点から沿岸漁業にとって重要な「タチウオ」、「アカザエビ」、「イセエビ」を新たに対象種として加え資源評価研究を行っています。
- ・国際的な資源管理が求められているニホンウナギについて、資源評価に不可欠なシラスウナギの採捕情報の収集・解析を全国の試験研究機関と共同で行っています。

## 【これまでに得られた成果】

(2020 年度の成果)

### タチウオ

- ・駿河湾内の大型定置網 2 ヶ統(由比、焼津)の漁獲量を集計したところ、近年の漁獲量は 2013 年以降減少傾向でしたが、2019 年は 45 トンと前年(26 トン)を上回る漁獲量であり(図 1)、資源水準は低位、動向は増加と判断しました。

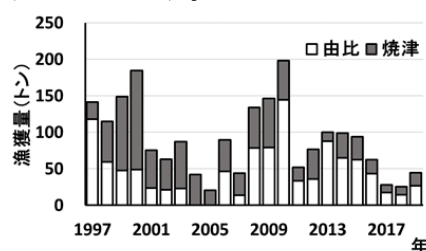


図 1 タチウオ漁獲量

### アカザエビ

- ・駿河湾内で操業する小型機船底びき網漁業(沼津地区)の漁獲量と、1 日 1 隻当たりの漁獲量(CPUE)を集計したところ、2019 年の漁獲量は 7,675 トン、CPUE は 10.7kg/隻と、共に前年(漁獲量:9,965 トン、CPUE :13.3kg/隻)を下回り(図 2)、資源水準は中位、動向は横這いと判断しました。

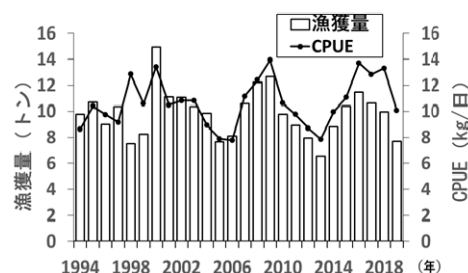


図 2 アカザエビ漁獲量と CPUE

### イセエビ

- ・農林水産統計の静岡県の水揚量の推移から、2018 年時点の資源水準は中位、動向は減少と判断しました(図 3)。2020 年に下田市白浜地先で実施した幼生採捕尾数は 15 尾で、前年(96 尾)を下回りました。

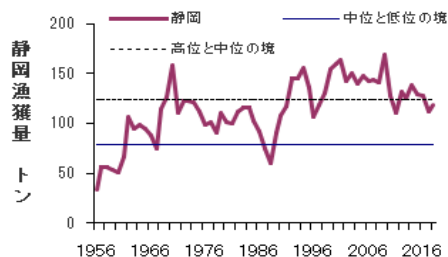


図 3 イセエビ水揚量と資源水準

### ニホンウナギ

- ・県内のシラスウナギ採捕量(12 月～翌年 4 月)を集計しました(図 4)。2020 年 12 月～2021 年 2 月の採捕量は 874kg で、前年同期間(1,246kg)を下回りました。

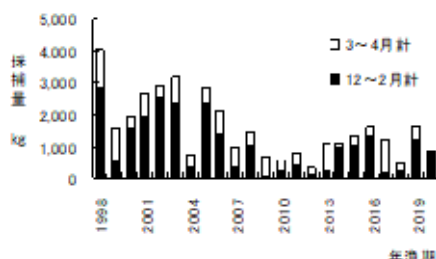


図 4 シラスウナギ採捕量

## 【期待される効果】

- ・データに基づいた資源評価を行くことで適切な資源管理が可能となり、資源の持続的な利用を図ることができます。

## 【今後の計画】

- ・データの収集と解析を継続します。
- ・得られた成果を、漁業者等へ情報発信します。

(作成 2021 年 4 月)